

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	これまでの理念を見直し、職員の言葉で理念を構築しようと、現在検討中である。	新たに事業所の理念を作るため、ユニットごとで話し合いが行われている。2つのユニットがそれぞれ作った理念を持ち寄り更に、話し合いをして事業所の理念を作り上げようとしている。	現在の入居者本位のケアが、職員等の異動に関わらず継続出来るように、一日も早く新しい理念を作成し、日々のケアに反映されることを望みます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には、健康状態を考慮して、出来るだけ参加するよう心がけている。日常的な散歩、買い物など出かけ、地域の人たちと挨拶を交わしたり、話したり、触れ合う機会をつくっている。	町内会の一員としてゴミの当番、草取り等に職員が参加している。公民館の掃除当番の時は入居者も一緒に出掛けている。焼き肉会に小学生たちが立ち寄ったり、地区の敬老会への出席、ボランティアの訪問もあり徐々に交流の場を広めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症ケアの啓発に努めている。また人材の育成貢献として実習生の受け入れを積極的にやっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	過去、法令上の基準を満たすまで開催していない。今後積極的に取り組み、地域密着型サービスとしての役割を果たして行きたい。運営推進委員会で取り上げられた検討事項等、その経過を報告しあい、1つ1つ積み上げていきたい。	会議設置要綱があり、構成メンバーも決められている。年間開催予定月と各月の議題など計画が立てられているが事業所側の都合で今年度はまだ会議は開かれていない。市に開催できない旨をその都度連絡している。	9月から再開をしたいと考えていると伺った。運営推進会議が継続的に開催されホームの要望等を伝え、また外部よりの意見を頂き運営に反映されることを望みます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連携はあまり出来ていないが、判断困難な時は相談に伺っている。認定更新の機会等に市町村担当者へ利用者の暮らしぶりを具体的に伝え、連携を深めるよう心がけている。	制度のこと、苦情や虐待また運営のことなど問題が生じたり困ることがあれば出向き、担当者に相談している。時には電話で話しをすることもあるが気軽に相談できている。現在、地域の「里山辺マップ」(安心マップ)の作成がホームからも参加し行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング等を通じ職員間で確認し、厳守するようにしている。	全職員が身体拘束に関しての具体的な行為を理解している。外出傾向の入居者がいてもケアの方法を話し合い鍵に頼らない対応を実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等を通じ職員間で確認し、厳守するようにしている。		

グループホームサンライズ里山辺・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会あるごとに説明を行っているが、実際に必要とされる利用者が居ないため、理解はまだ無い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に時間を取って説明している。特に利用料金や起こりえるリスク、重度化の見取りについて、当事業所の考え、医療体制について説明して同意を得ている。当事業所のケアに関する取組みについても説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情設置箱を玄関フロアに儲けている。苦情を受けた時は、発生原因を探り課題を検討して、改善にむけている。	家族会はないが敬老会には家族全員の参加をお願いしホームに対する意見や要望を伺っている。家族の訪問時などに声をかけている。出された意見や要望は全職員で話し合い運営に反映させている。	以前発行されていた「サンライズ新聞」が休刊中なので再開に向けて検討されることを望みます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、勉強会をそれぞれ月1回行い、意見を聞くようにしている。日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、問いかけたり、聞き出したりするようにしている。	毎月の全体会議やミーティングでは意見を出してもらい運営に反映させている。職員からは自分の意見や考えを遠慮なく述べることができ、また活発な話し合いが行われていると伺った。年に一度法人代表者との個人面接も行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者も月一回の責任者会議、ミーティングに参加して、事業所の状態、職員の悩みを聞き、改善に向けている。職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は本人の意向を重視しながら職場内で活かせる労働環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、事業者内研修にはなるべく多くの職員が受講できるようにしている。それらの報告は毎月の全体会で、伝達講習をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同地区の事業所と交流を持ち、バイオリンコンサート、研修会、夏祭り行事に参加させて頂いている。		

グループホームサンライズ里山辺・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握するように努め、その過程で利用者や家族の思いを受け止め安心頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームではどのような対応が出来るのか事前に話し合いをしている。相談する家族の立場に立って、話しをしっかりと聴きながら、受け止めながら関係を築いて行きたい。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用開始前の事前相談などの機会には、必ずご本人にとってグループホームでの生活及びケアが最善であるのか慎重に見極める努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしと共にするという共有の意識の中で人として先達を敬い、生活の中で教えて頂く事の大切さ、又、ご本人様は教える事で生活を楽しみ自分を再確認できるよう何事も双方方向に向いた声掛け行動を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様を自分の家族と同じように感じている事をご家族に伝え、ここでの生活をより良いものにする様、話し合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一番は家族と共に過ごせる時間を作って頂いてく為に外泊のセッティングや、友人・知人が気楽に訪れて頂けるように心がけている。又、馴染みの場所などは、外出などの折に、なるべく訪れるようにしている。	友人や知人の訪問を受ける入居者、入居前から利用していたデイサービスを訪問する入居者、馴染みの美容院に行く入居者など一人ひとり馴染みの関係を継続している。また家族が一堂に集まるお盆や年末年始の時期には外泊支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が自然と助け合い、喜び、悲しみを分かち合えるような声掛けや、たまには利用者様の間に入り、繋ぎの役目をしてまいりました。		

グループホームサンライズ里山辺・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた方にも、様子を聞いたり、ご家族の方の話も聞いて、相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの関りの中で話を聞いたり、又、あまり話たがらない利用者様には、ご家族の方に聞いたりして把握しようと努めている。	日々、入居者と話したり一緒に生活する中から思いや意向の把握に努めている。意思表示が出来なかった入居者の一人は医師や職員等の暖かなケアの結果、徐々に言葉で意思を伝えるようになり、まれに会話が出来ようになったと伺った。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談の中でご本人様、ご家族に聞いて把握に努めている。又、入所後も日々の話の中からヒントを得られるように心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとり違う生活リズムを一緒に生活する中で感じ取り把握している。そしてユニット全体の中でどう調和してゆくか常に考えながら行動している。生活を共にするという中で心身状態・している事・できない事を察知するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間でのカンファレンス・アセスメントをへてケアプランの作成・変更を行っている。3ヶ月に1度ご家族・支援者には蜜に連絡し、その意見を聞き参考にしている。	本人、家族の意向を基に本人が望む生活を皆で話し合い作成している。必要に応じて生活状況を評価しプランを作り変えている。誰にでも分かり易い言葉で表現する努力が伺える。介護計画は本人家族に説明し確認印を得ている。	日々の実施状況が確認できるようにチェック表を作成し、状況変化や遂行状況を把握できるように工夫されることを望みます。また、見直しの期間を具体的に示すことを望みます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子・変化・気になる言葉や行動など、個別の記録に記入し職員は出社時に記録を読み、情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族の状況に応じ、通院支援等の対応を行っている。		

グループホームサンライズ里山辺・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティア等を活用して、日々、職員の足りない所を支援して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の他、利用前からの掛かり付け医の医療を受けられる様、ご家族と協力して通院介助を行っている。	かかりつけ医は本人家族の希望に沿っている。通院や診察時は家族に代わって付き添うこともある。異常や緊急時には協力医療機関と連携し適切な医療を受けられるよう支援している。毎月、協力医の往診があり健康管理が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の定期訪問の他、24時間体制で訪問看護が受けられ、訪問の際には各利用者の健康管理、適切な医療サービスが受けられる様に支援している。又、職員と看護師と気軽に相談できる関係はできている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院した時は面会を重ね、情報の交換に努め、ご家族の方とも連携し支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員全体カンファレンスを行い、気持ち、ケアの統一を計り、行っている。又、ご家族との話し合いも繰り返し行い、ご家族の気持ちも考慮しながら、できるケアの説明を行っている。終末期ケアには医療機関の意見は重要で、情報の交換・訪問看護の協力などを協力して行っている。	「入居者が重度化した場合にかかわる指針」が作成されており入居時に説明している。終末ケアの必要が生じたときには家族の気持ちに沿いながら医師、訪問看護の協力を得ながら行っている。看護師とは24時間連絡相談が可能である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、夜間時の緊急時対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3～4回の火災訓練を行い。職員の危機意識を高め、実際の避難方法を検討している。又、町内会に入り、そのような時も話し合っている。	災害対策マニュアルが作成されている。消防署の指導を受けながらユニット合同の防災訓練を年2回は行い、避難訓練、消火器の扱い方、緊急連絡や設備点検なども同時に行っている。町内会と相談し入居者の避難先を確保することが出来た。	職員だけの避難誘導には限界があるので町内会とホームの災害対策の理解を求め協力体制が得られるよう積極的に取り組んで欲しい。

グループホームサンライズ里山辺・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとり個性が違いうように声掛けの仕方や対応も違い、誇りやプライバシーが損ねることがないように、ミーティングの折、話し合い、確認している。	入居者一人ひとりの人格を尊重しながら個別の声掛けが行われている。プライバシー保護に関するマニュアルがある。適切でないケアや声掛けが行われた場合には個別指導とミーティングで話し合い、誇りやプライバシー確保の実践に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り、場面に応じて選択の幅を広げられるよう、声掛けや気持ちを考えて行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、1人ひとりの体調や気持ちに配慮しながら、その時の希望を取り入れ、個々の流れは少し違って、それぞれが上手く溶け合うような時間の流れを作れるよう考えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の身だしなみ、化粧は本人の好みで支援している。一部の利用者はご本人の望む理容店に行かされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けなどは利用者様にも一部手伝って頂き、一緒に食事をするという事を全部味わって頂いている。又、献立は利用者様の希望を聞き、献立に取り入れ、食事を楽しく、自分のものとして頂いている。	入居者は出来る範囲で食事の準備や片付けを行っている。夕食のメインのおかずは同じ法人の運営するお惣菜店から届く。その店は天然素材と料理指導をしているので献立、調理のアドバイスを時々受けている。献立はユニットごと作成している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量も個々に合わせて提供している。献立の栄養バランスに考慮し、1人ひとりの摂取量を把握するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じた口腔ケアを行っている。又、寝る時には、入れ歯洗浄剤に浸け義歯の清潔に努めている。		

グループホームサンライズ里山辺・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間を把握し、誘導、促しをトイレで排泄できるように支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレでの排泄や排泄の自立支援が行われている。訪問看護の排泄(摘便)介助を受けていたがトイレ誘導を行なったことで自立に繋がった入居者がいる。また、脱オムツ、脱パットの支援にも積極的に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事など繊維質の多い野菜類など多く取るようメニューを考え、足上げ運動や散歩など軽く身体を動かせるメニューを毎日取り入れている。又、週1回訪問看護に状態を説明をして処置してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	原則は週2回の入浴を実施している。その他、汗を掻いたりした時はシャワー浴などを、希望のある人は入浴も行う。入浴拒否のある人には、職員も一緒に入り、安心感を持ってもらえるよう工夫している。	ホームの浴室を「里山辺温泉」と呼び、お風呂につかれれば『極楽、極楽』と喜びの言葉を聞くことができる。一方、入浴を嫌がる入居者には安心感や気分良く入浴してもらうために職員も入浴し裸のお付き合いをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	大きな生活リズムは、日中稼働を促し、作るよう心がけ、その他の時間は個々に居室で休んだりソファで腰掛け談笑し、そのまま眠ってしまう事もあり、ここが自分の家のように自由で安心していられるよう見守っている。又、夕方からは穏やかで落ち着くよう職員も接している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は、その都度本人に手渡し服用を確認している。状態の変化時には、訪問看護・協力医療機関との連携を図れている。又、服薬管理表を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、自然と役割みたいなものが出来、体調など見ながら一緒に行き、終えるという充実感を感じてもらえると考えます。又、その日の利用者の気分に合わせて、手伝い、レクレーションなど使用者中心で話し合い、決めてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間を通して季節感を感じられるよう、花見、紅葉、初詣、祭りなど外出を支援している。(行事として)。又、本人の希望に応じて、散歩や買い物、ドライブなど、ちょっとした外出の支援も行っている。	歩いたり、車椅子に乗ったり、杖をつくなどして1階の駐車場まで降り、歌やおしゃべり時には通りを歩く顔見知りや挨拶したりと屋外で過ごしている。また個別に希望があれば(行きつけの美容院、個別の買物など)家族等と相談しながら外出支援を行っている。	

グループホームサンライズ里山辺・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方には所持して頂き、買い物などの支払いもして頂く(見守り)。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの希望により支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日常生活の音や季節の香り、音、目で楽しむことなどを、リビングや日常の中に取り入れる工夫をしている。	居間兼食堂には窓からの明るい日差しが差し込む。食堂、洗面所、トイレなど共用空間を囲むように居室がある。入居者は多くの時間をこの明るい食堂の思い思いの椅子やソファで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングやソファーや和室にコタツを設け、自由に使えるスペースを確保していて、それぞれ思い思いに使用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族との相談により、使い慣れた物、写真など、馴染みの物を持ち込まれ、居心地良く過ごせるよう配慮している。	家族写真の溢れる居室、大きな安楽椅子のある居室、沢山の洋服のある居室など個性的な居室となっている。入居者のお気に入りや大切な物、馴染みの物があることで気持ちよく過ごすことが出来るように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとり皆違うので、その人の心身の状態に合わせて工夫するよう心がけている。又、混乱が繰り返し続くような時には、その原因を職員一同で話し合い、なるべく取り除き、環境の整備に努めている。		